様式第３号（第７条関係）

令和５年３月２７日

糸満市議会議長　金城　寛　　殿

民生委員長　浦崎　暁

委員派遣結果報告書

糸満市議会の議員及び委員の派遣に関する要綱第７条の規定に基づき、その結果を下記のとおり報告します。

記

１	日　　時	令和５年１月１７日～１月２０日
２	場　　所	福岡県大木町、広島県広島市、福岡県北九州市
３	調査等の概要	（別紙１のとおり）
４	意　　見	（別紙１のとおり）
５	参　加　者	浦崎暁、新垣勇太、玉城哲郎、賀数郁美、長嶺安浩、金城悟、金城寛

別紙１

糸満市議会　民生委員会　行政視察

視察先：福岡県大木町、広島県広島市、福岡県北九州市

期間：令和５年１月 17 日(火)～20 日(金)

参加者：浦崎暁（委員長)、新垣勇太(副委員長)、玉城哲郎、賀数郁美、

長嶺安浩、金城悟、金城寛、玉城洋平（随行職員)(計８名)

1.【福岡県大木町】令和５年１月 18 日（水曜日）

調査事項：(1）おおき循環センター「くるるん」視察

①調査目的

従来焼却処理していた生ごみや海洋投棄処理していた浄化槽汚泥、し尿はエネルギー資源として、また有機肥料として町内で活用している。この事業は住民と力を合わせ未来の世代に地球温暖化などの深刻な影響をできるだけ残さないように、ごみを資源として循環利用する社会を創ることを目標としている大木町の取組を本市の参考すること。

②視察概要

まちづくり課環境グループ　係長　石橋　様より説明をいただきました。
街の特産品として米麦中心以前は「い草」も主要な産地だったが中国等の輸入も増え生産が壊滅しその後「きのこ」の栽培が普及。その他イチゴのあまおうやアスパラガスの生産も盛んでふるさと納税では人気商品となっていると説明。

「ゴミ問題に着手した経緯」について
平成 12 年～13 年に
「三位一体の改革（地方交付税の見直し)」
「家庭用焼却炉補助ダイオキシン問題で廃止」
「増え続けるゴミ問題（コスト増)」
} 財源が不安定かつ不透明

※元々農業が盛んな地域で生ゴミ自体も畑元していた
時代に着目し
平成 12 年　「新エネルギービジョン策定」
稲藁や生ゴミ、し尿がエネルギーにならない
か？

平成 13 年　　リサイクルセンター新築
平成 14 年　　共同研究開発　バイオガスシステ
ム
平成 15 年　　廃食用油収集開始
平成 16 年

行政・福岡県・九州大学
佐賀大学・長崎大学・住民
（モデル地区の協力）等から協力
※途中から Kubota から
試験実証プラントの提供

※発酵した液体を水処理をして廃棄するのではなく農地へ液肥として還していく実証実験を
３ヵ年行なってきた。

平成 18 年　　生ゴミ分別開始
おおき循環センター「くるるん」オープン
これを契機に燃やすゴミの量が一気に減る。

平成 20 年 3 月 11 日
「大木町もったいない宣言」ゼロウエイスト宣言
地球温暖化による気候変動は、100 年後の人類の存在を脅かすほど深刻さを増しています。
その原因が人間の活動や大量に資源を消費する社会にあることは明らかです。
私たちは、無駄の多い暮し方を見直し、これ以上子どもたちに「つけ」を残さない町を創る
ことを決意し、「大木町もったいない宣言」
内容↓

１、先人の暮らしの知恵に学び「もったいない」の心を育て、無駄のない町の暮らしを創造
します。
２、もともとは貴重な資源である「ごみ」の再資源化を進め、2016 年（平成 28 年）度まで
に「ごみ」の焼却・埋め立て処分をしない町を目指します。
３、大木町は、地球上の小さな小さな町ではありますが、地球の一員としての志を持ち、同
じ志を持つ世界中の人々と手をつなぎ、持続可能なまちづくりを進めます。

ゼロウエスト宣言は全国で 5 自治体しかなく
徳島県上勝町　　平成 15 年 9 月
福岡県大木町　　平成 20 年 3 月
熊本県水俣市　　平成 21 年 11 月
奈良県斑鳩町　　平成 29 年 5 月
福岡県みやま市　令和 2 年 9 月　←大木町とほぼ同じやり方で事業開始
大木町リサイクル率 65.4%（全国 6 位）ゴミの分別は 29 種類

「生ごみ循環事業について」

①生ごみの分別
家庭の台所・学校給食で分別

②発酵させ液肥化
バイオガスプラントで発酵させ
バイオガスと液肥を回収

③液肥の農地還元
バイオガス液肥を有機質肥料として
農地へ還す

④地元農産物の供給
バイオガス液肥や堆肥を使った農産物
を給食や家庭の台所へ

①〜④を循環

「生ごみ循環事業について（バイオガス)」

・浄化槽汚泥 30 トン
※全体の 14%残りは水処理後家庭の浄化槽の張り水として再利用
・し尿 7 トン
・家庭生ごみ 3,7 トン

プラント（発酵槽）に投入しバイオガス

☆発酵槽の中で「37 度で 22 日間発酵」＝メタン菌で有機物を分解を発生

☆発生させたバイオガスを施設内の電力に７～８割賄っている

「生ごみ循環事業について（液体肥料)」

☆年間約 5,500 トンの液肥を生産
☆普通肥料登録として認可
☆液肥代＝無料
☆散布料 1,000 円/10a
※散布の際は運搬車で現場へ行き散布車に移し替える。散布の際は多少アンモニア臭がするが数日で消える。近隣からの苦情はほとんどなし。子どもたちへの環境学習としてプランター栽培での液肥を使用しての作物の発育実験も行なっている。

R2,3/9　「くるっ肥」検査結果

分析項目	含有量
リン酸	0.06%
カリ全量	0.08%
全窒素	0.02%
アンモニア態窒素	0.14%
総水銀	0.22mg/kg(2)
カドミウム	1.40mg/kg(5)
鉛	7.70mg/kg(100)
ヒ素	8.70mg/kg(50)

※（　）内は肥料取締法の制限値
※成分の含有量はメタン発酵槽の入れるもので多少変わるとのこと
※「くるっ肥」を用いて栽培された「特別栽培米　環のめぐみ」は学校給食に供給
　　令和元年度は約 15,5a で栽培
※町民には優先的に安価で販売
　令和元年度販売価格　　町民価格　5kg　1,980 円　　一般価格　　2,300 円

「バイオガスプラントの特徴について」
☆完全嫌気発酵なので、発酵途中の臭いが盛れない

※嫌気＝嫌気性生物とは増殖に酸素を必要としない生物のこと
☆メタンガスを回収し、エネルギー利用できるのでランニングコストが安い
☆消化液を液肥として活用することで、メリットが倍増する
・水処理のイニシャルコストやランニングコストが削減できる
・液肥を資源として活用できる

「生ごみの出し方」

☆バケツコンテナ方式による裸回収
※転入時に役場にて初回のみ無料配布

☆町内 3 区域・前日に収集タルを設置・祝日も収集（毎週 2 回収集）
※月に設置（夕方）、火に収集（朝 8 時 30 分）
※タルが設置され次第住民はゴミ捨てが可能
※収集タルは 10 世帯に一箇所程度設置

※燃えるゴミの収集は週 2 回だったが生ごみ収集をはじめると同時に週 1 回に変更

「おおき循環センター」の整備について

☆整備期間　　平成 17 年度～平成 21 年度（5 年間）
☆総事業費　　約 11 億 2 千万円
（農林水産省バイオマスの環づくり交付金による補助率 2 分の 1、町負担の一部起債、また交付税措置あり）

☆内訳
・第一期工事　（平成 17 年度～平成 18 年度）

メタン発酵槽施設（施工、三井造船（株））	約 5 億 1,966 万円
管理学習施設、バイオの丘（施工、（株）熊丸組）	約 1 億 8,165 万円
外部液肥タンク、車庫	約 7,800 万円
液肥配布車両・運搬車両他	約 5,700 万円

・第二期工事　（平成 20 年度～平成 21 年度）

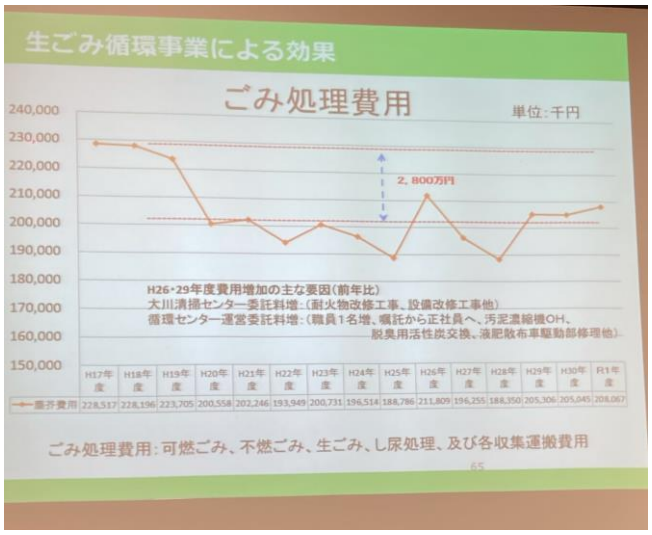
農産物直売所、郷土料理レストラン、交流広場など　　約２億２千万円

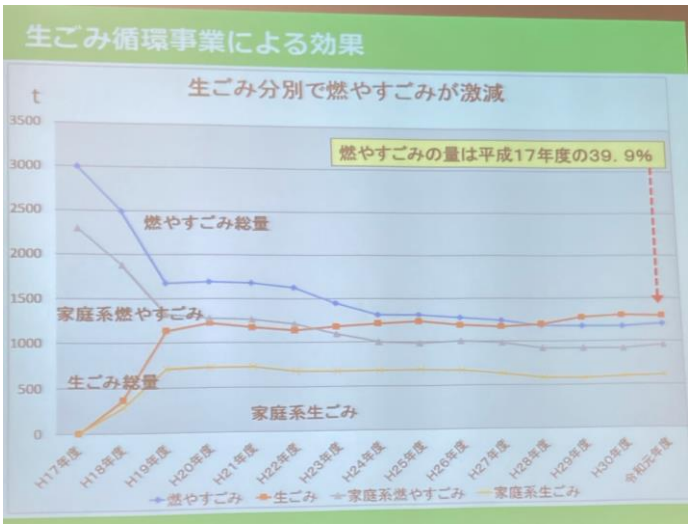
一般の処理施設（焼却施設や、し尿処理場）と比較すると 1/3～1/4 の建設費（当時は）

「おおき循環センター」運営体制について（令和２年３月現在）
町の目標でもある循環型の考えを元に地元採用を行うため（一社）サステナブルおおきを立ち上げた。焼却施設、し尿施設ではメーカーに委託するケースが多いがバイオマスプラントの場合は比較的に単純な作業が多いことから地元の雇用となっている。(現在 38 人程度雇用)
※専門の業者に委託している部分もある

「ゴミ処理費用」について
※ゴミ処理費用＝可燃ごみ、不燃ごみ、生ごみ、し尿処理、及び各収集運搬費用

平成 17 年の生ごみ分別する前のゴミ処理費用は約２億 2,851 万円費用がかかっている。
そこから分別を開始して平均で 2,800 万円程度削減できたいる。燃やすごみも４割程度減っている。





「生ごみ循環事業の効果」について

１、ごみが半減（重量）する。(ごみ減量効果)
２、地域ぐるみの協働事業（地域の一体感）
３、地域農業への貢献４、環境負荷の軽減
５、ごみ処理費の削減
６、地域雇用の創出

} 地域活性化に貢献

③所感

「まとめ」
持続可能な社会（環境社会）を目指して
☆現在の大量消費社会の裏では。。。
➡「資源枯渇」「環境破壊」「気候変動」
➡モノの豊かさ・便利さだけでは本当の豊かさは
⇨「次世代へのつけ」実現できない

地球上の限られた資源や自然は次世代と共有すべきものである

↓

○持続可能な循環社会をめざして
➡資源やエネルギーなどの大量消費から脱却
➡ごみの発生抑制・ごみの資源化（もったいない文化の復活）
➡各地域の FEC 自給圏（※）の確立（地産地消・自然エネルギー・住民協働）
➡地域資源を活かした環境に優しい暮らしの確立・新たな豊かさの創造

※FEC 自給圏とは
経済評論家の内橋克人氏が東日本大震災の復興にあたって提言している構想。
F＝Foods「食料」　E＝Energy「自然、再生可能エネルギー」
C＝Care「介護、ケア」の頭分

2.【広島県広島市】令和５年１月 19 日（木曜日）

調査事項：(1) 地域猫活動について

①調査目的

2014 年度から不妊・去勢手術助成金の取組を開始し昨年度は 1500 件以上の実績があり、さらに今年度から町内会単位から、代表者が市内に在住か勤務の２人以上の 団体に助成対象を拡充し、苦情等が減少しているとの実績もあげている。広島市の取組を本市の参考にする。

②視察概要

広島県内の平成 23 年度の犬猫の殺処分頭数が全国最多になったことが問題になり、その大部分を占める野良猫の引き取り数を減らす事が急務になった背景であり、平成 26 年 12 月から地道に地域に出向き地域猫活動への告知を行つてきました。地域猫活動とは地域住民が主体となり、動物愛護ボランティア、行政等の協力を得ながら、適切な餌やり場所と時間を決めて実施をする。給餌場所の清掃管理やトイレ等の設置し、糞尿の始末等の管理をする。また、不妊・去勢手術を行い手術後には耳に目印をつけます。そのような事を地域で協力して継続して実施し、「住みよい地域」をつくる事が活動の趣旨であります。メリットは不妊去勢手術を行うため、新たな子猫が生まれません。猫はエリアを守る動物のため、他の地域からの猫の侵入を防いだり、適切に餌を与えるため、野良猫がゴミをあさる事が少なくなります。メリットは他にも多くありますが、最初の頃は取り組むメンバーも少なかったようです。しかし、上記に記載している取り組みの内容を町内会に丁寧に説明する事で活動に理解し賛同するメンバーがロコミで増えて広がり今では、野良犬猫殺処分件数が減少している。

☆広島方式☆ ・市独自の予算で不妊。去勢手術を行っている(動物愛護センターと民間の動物病院で年間 1500 頭)(平成 27 年から R4 まで 564 町内会で 6963 頭の手術実施 ）。動物病院の協力体制ができている（安価で去勢手術ができる 12000 円代 ）。広島市の行政の二組織に動物愛護センターがあり市の職員で去勢手術を実施している。各地域の町内会長の承諾がないと地域猫活動が実施できない（申請書方式 ）・R4 年地域猫活動ガイドライン策定。

◎本市と違うことは組織が健康福祉局と動物愛護センターとで連携をしている。

◎広島市は、地域の野良猫に不妊去勢手術を無料で実施し費用に 400 万円を盛り込んで財源を確保している。

③所感

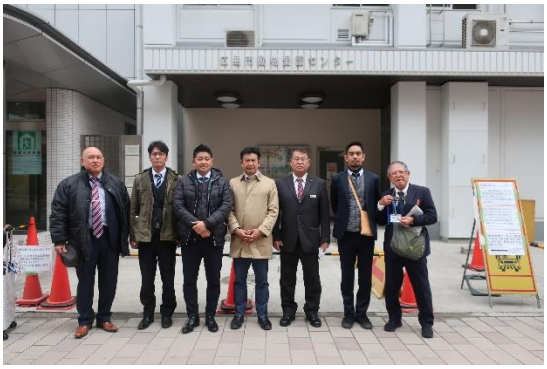
☆市への提言として☆ 地域猫活動を理解し、賛同して責える市民を増やして全自治会に説明会を実施していく。動物病院に姑して地域貢献の一環として、安価で去勢手術ができないか協力体制を構築していく。市独自の予算が厳しいならワンニャン基金の活用を再度検討していく。ふるさと納税等で野良犬猫殺処分を防ぐための項目をしつかり明記して予算確保に努めていく

◎2014 年から地域猫活動を地域の自治体と協働でボランティア活動をスタートさせている、地域の 73 自治会にて提案できないか検討する。

◎動物愛護団体等と協議をし、協働の構築を提案したい。

◎地域猫活動時に活動中であることを地域の周りの住民の方に理解していただき、円滑に活動できるよう、活動中に携帯する名札を作成しています。名札ホルダー(首から下げるストラウプ付) を入れて広島市動物愛護センターから配布しています。本市に提案したい。

◎チラシにもネコを正しく飼っていますか?等チラシを活用しており本市に提案したい。



3.【福岡県北九州市】令和５年１月 19 日（木曜日）

調査事項：(1) 子育てふれあい交流プラザ「元気のもり」視察

(2) 待機児童対策について

①調査目的

子育てしやすい街で全国上位にあり、その理由として 10 年連続待機児童ゼロ、365 日 24 時間体制の小児救急医療の充実、親子で遊べる公的施設の充実など多岐にわたるが、その中でも、子育てふれあい交流ふれあいプラザ「元気のもり」の施設見学を行う。また、待機児童対策 の取組についても学び本市の参考にする。

②視察概要

子育てふれあい交流ふれあいプラザ「元気のもり」について、子どもの豊かな感性や創造力を育み、子育て中の保護者が持つ負担や不安感を解消するための総合的な子育て支援拠点施設として設置。

０歳から就学前の子どもの豊かな感性や創造性を育むとともに、子育て中の親の不安の解消、地域の子育てを支援する活動の活性化を目的に、子どもの遊び場、子育てに関する情報交換の場、地域の子育て支援団体の交流の場等を提供する施設。

設置の経緯は今までの施設では狭く使いづらい、その中で AIM 事業検討委員会からの提案で大型施設アジア太平洋インポートの一室に３０７８㎡の施設であり、工事費約９億３０００万円北九州市による単独財源である、コンセプトは子どもの感性や創造力の育み、子を育てる親の不安解消、子育て支援を目的としています。また、親だけではなく地域と一緒になって子どもを見守り、イベントをしながら、小さいお子さんから地域方が繋がり合えると言っていました。糸満市にも子育て支援施設は３ヶ所ありますが何が違くて、参考になれるものを研究してきた事を報告します。

１．元気のもり、施設について

（１）先程にもありましたが面積は３０７８㎡であり、名前は公募で決まりました。玄関から工夫をされていて、靴箱が約６つあり、１つ１つに違いがあり、ゾウやライオン等が描かれているイラストで、子ども達がどこに靴を置いたか覚えてもるまた忘れない為に靴箱の側面に手をかざすと動物の鳴き声でるという仕組みであり、子どもが喜ぶと言うのと動物の鳴き声の認識、記憶のあり方を育む事に繋がるとの事です。多目的貸室に案内され、壁は子ども達がぶつかっても大丈夫なように座布団が設置され、外す事もできる、外す事によってまた壁に戻したくなる、親からしたら片付けしていると思い褒める、褒められると自分が使っ

た物は自然と元に戻す片付けができるようになる、そういった目的や考えで設置をされている。

プレイゾーンについて、モンチッチーファミリーがおもてなし、木を使用した遊具やおもちゃがありおもちゃに関しては親御さんの要望で自分たちが遊んだ積み木やおもちゃを子ども達に遊んで欲しいとの思いで置いてあるそうです。子どもだけではなく親も一緒に遊べるば、子育てできる場と言う事で木の音で自由に音楽を奏でたいとの事で木を使用、また、より木のぬくもりを感じてほしい思いから木の玉（４ｃｍほど）５万個を使い木の砂場を設置、当然子どもの身長は低いので目線は上になります。木の柱に妖精や天井をカラフルにして子ども達が目に付く所に飽きさせる事がないよう工夫している、ハイハイ広場について、0歳の子にハイハイを啓発させる為に色々なマットを使用、自宅ですとできるスペースも限られていて、また、平たいので、マットを凹凸や波型にしてハイハイを楽しませる、ハイハイを楽しんでくれる事により親は自分の子が成長したと感じるそうです。水の広場はタオル着替え（子どもの分）を準備してもらい親子で水遊びを楽しんでもらうスペース（広場の構造は子どもしか入れない規模である）水の中をいっぱい遊べると共に五感を良くするのが目的、不規則に木の柱や木の椅子が固定されて設置されています。なぜなら、子供は走り回るので、どこかでブレーキをかけないと子ども同士でぶつかる可能性があるための安全性で設置また子どもの記憶力に繋がるとの事、次の日に行ってもあの場所には椅子がる、小さい事でも覚えてもらう為との考えで設置

落書き広場、長さ２７ｍ高さ約４ｍの壁に１階と２階に分け１階にからくるウォールといい、ギア（歯車に似ている）４０００個もあり、壁にギアを繋ぎ合わせて、グルグルと遊ぶ、となりはマグネットゾーンで磁石の付いた木のレールを繋ぎ合せ、自分なりにコースを作り木のボールを転がせる、どちらも創造力や自分で作り上げる、そして上手くいかなかった時の学びをつけるそう言った広場である。

創作広場、親子で工作する広場、広場といっても３歳児ぐらいに合わせたテーブルと椅子があり、親子で何かを作る広場、目的は単純に親子で何かをやる、親子の会話を作る

絵本の広場、お話コーナーと言う母親の胎内をイメージしたドーム型（高さ２ｍぐらい）の読み聞かせできるコーナー窓もなくお父さんが子どもに絵本を読む時に照れや恥ずかしさなく子どもに読み聞かせする為に作られました。また、テレビや他の子の声もなく子どもが集中できる、恐い本の時はお父さんとお母さんだから大丈夫という安心感と恐い本を見てもお父さんお母さんと一緒に乗り越えたという経験をさせたいとの事であり、お話コーナーの中には２階（イメージとしては屋根裏の秘密基地）があり子ども達に喜んで欲しいとの事であります。

床からでる光、４cm ぐらいの丸い光が床から出て、意味はない（深い意味で）子どもが気づき、踏んだり、触ったり、目印にしたり、逆に子ども達に意味をもたせる（創造力を作らす）

チャレンジ広場、お母さんの胎内をイメージしたスポンジプールでふわふわ感を親子で楽しんでほしいとのこと

プレイゾーンから出てセーフキッズに移動、セーフキッズは親を育てるを目的のコーナーであり、テレビ、ソファー、冷蔵庫、テーブル、キッチン（ガス）等、日常生活を再現して、ねがいりする赤ちゃんはソファーから落ちる、リモコンや小さい小物の誤飲、熱いものを触って火傷等の過去の事故を参考に職員が親に教えるコーナー

その他、多目的ルームはママさん同士でパーティーしたり、悩みを話し合う場、キッチンもあるので一緒に料理してママ友の親睦を深め合える、

一時預かり保育、１時間単位で子どもを預かる

リフレッシュルーム、パパと子どもが遊んでる間にママがマッサージチェアでやすらいでもらうスペースがある

委員からの質問で外国人にはどのような配慮を行っているかについて「スマフォの翻訳アプリや中国語の説明書を見せて指でどこ行きたいや何したいかを意思表示してもらう」と説明があり

赤ちゃん同窓会というイベントがあり、同じ年に生まれた子どもの親同士が集るサークルで何回でも無料で部屋を貸出ができる、親達は何年たっても繋がっているそうです。

元気のもり施設については下記のようになっている

（１）プレイゾーンに関しましては、子どもと親が一緒に遊びながら、子供の創造力の育みや成長ができるコーナーであり、近くに遊べる、山、海、川、森等自然と触れ合う機会がないので職員がアイディアを出し合い作られたものである

（２）セーフキッズは子どもが怪我や事故にあわないように、親のための施設

（３）その他の施設に関しては親同士の意見交換、リフレッシュの為のルーム

以上で元気のもり施設に関してであります。
※　元気のもり利用者は満足度６０．８％、良かった３９．２％とあり、理由としては施設が広い、暑い寒い関係なく遊べる、木のおもちゃが楽しいとの声がある
※　児童虐待に関しては条例を制定して多胎児や未就園児支援の個々へ対応を丁寧に取り組み、親権者への過度の体罰未然の啓発に取り組んでいる、産後うつ予防のフローと連携して各関係機関で未然防止に取り組んでいる

③所感

子育てふれあい交流プラザ「元気のもり」
　委員の中には「自分の子どもが小さい頃にこのような施設があればよかった」、「こういった職員の自由な発想な施設はこれからも必要」、「素晴らしすぎてタメ息しかでない」等の感想がありました。
待機児童対策
　待機児童・保育士確保については、保育の受け皿拡充にあわせ、処遇改善等による 「保育士確保」に取り組むことで、継続的な待機児童の解消に向けた環境整備を図つていくとのこと。
　北九州市は 12 年待機児童０であり、日本１子育てしやすいと言われていて、それは NPO 法人エガリテ調査結果を２０２０年にだしていて、下記の事が言われている
（１）子どもを安全安心して育てる事ができる
ア．医療体制の充実、２４時間緊急医療期間が４ヶ所ある
（２）産後ケアの充実
ア．出産４ヶ月後に担当職員が全戸訪問し母子のケアをする
（３）発達障害児の気づき
　ア．元気のもり等の子育て支援施設を利用している、子どもをみて気づきアドバイスをする
こういった事で日本１子育てしやすい都市と言われている
　待機児童についてはこれまで、施設の拡充（３２９０名分の店員拡大、令和４年４月）保育士確保のための処遇改善を図り待機児童０を達成をしてきたが、これからの課題としても保育士の確保が難しくなり、対策として新年度卒の確保はもちろん手当の上乗せ等は行う予定である、保育施設は今だにニーズはあるがそれは１部の地域であり、受け皿はあるがニーズがない所は統廃合している、まだ令和６年までは受け皿は確保はできている